

われもこう

題字 岸田靖弘さん



お寺のはなし

普門寺 鷺見 聡美

これは、私が先代の住職や義母が話していた事を、手伝いしながら聞き覚えたり、地域の方に教えて頂いたりした話です。それを簡単にまとめたもので間違っている所もあるかもしれませんが何卒ご容赦ください。

普門寺は、室町時代に創建されました。足利義満公の時代です。当時、寺領(寺の面積)は六千坪あり、その中に十の伽藍(建物)がありました。又、管領がこの寺で政務を行っており、その居城でもありました。寺の寺領を囲む様に二重の堀もあったと言われていて、堀を含めると九千坪ぐらいが寺領だったと思われれます。しかし、残念ながら現在は一千坪少しくなっています。(当時の五分之一)隣接する三輪神社は、富田及び寺の鎮守として建ち、明治時代に政府の政策により独立し現在に至っています。本照寺も寺領の一部で、今でも残っている石垣は、寺が城であった名残だと言われています。(本照寺は、江戸時代に現在の場所に移ったそうです。)堀は、現在はほとんど残っていませんが、寺の西側、

富田小学校のグラウンドは、昭和30年代後半まで池でした。又、富田支所の辺りも同じ頃まで筒井池の一部だったのでどちらも外堀の跡と思われます。そして、南側は現在民家がたくさん建っていて、どこまで堀だったのかわかりません。門も当時の寺領の大きさを考えると今の門は中門です。現在でもまだまだ分かっていないことがたくさんあります。

〈室町時代〉

この時代は、細川家の方が管領として今の大阪、神戸一帯を治め、当寺で政務を行っていました。特に、晴元公と御縁があり、生涯戦いの日々でしたが、最後、家臣である三好長慶との戦いに破れ、当寺に幽閉されそのまま亡くなっています。その宝篋印塔があります。

又、幕府十四代将軍、足利義栄公は、^{よしひで}将軍になる為に阿波国(現在の徳島県)から出てこられ、当寺で朝廷より将軍宣下を受けています。しかし、義栄公は元より病弱な方でこれ以降の資料が少なく、半年くらいで亡



くなっています。

〈安土・桃山時代〉

この時代になると、富田界限は、多数の寺院が増え寺内町として栄え、酒造も盛んで当時は堺と同じように「自治」の町だったそうです。当寺では、織田信長公、豊臣秀吉公からも「所領安堵」の書状を頂いたことがわかっています。(残念ながら、現在は所在不明です) 又、本能寺の変後の中国大返しは有名ですが、最後に立寄り軍議を開いたのは当寺になります。

〈江戸時代〉

江戸初期は、天皇家の寺となり後水尾天皇の行幸先の一つとされていました。方丈の襖絵と枯山水の庭は、天皇の御命で作られました。襖絵は、狩野安信の作ですが、残念ながら、三分の二近く絵が雨漏り等で欠損している状態です。庭は、京都の桂離宮の回遊式庭園の一つ「天橋立」と同じ造りで作られたと言われています。又、この時代は隠元禅師が当寺に六年～七年滞在されていました。(中国から長崎に見え、京都宇治の萬福寺に移られるまでの間です) その間、後水尾天皇をはじめ公家、武家から商人町人に至るたくさんの方々と交流された様です。隠元様は日本の文化に多大な影響を与えた方として知られています。例えば、今日私達が普通に食べているレンコン、かぼちゃ、すいか、緑茶、そして名前が付いているインゲンマメをはじめ印

普門寺リーフレットより

刷技術、原稿用紙等も日本に伝えました。

〈寺のその後〉

隠元様が宇治へ移られて以降、中々住職に恵まれず衰退していきます。又、幕末からは高槻の政治の中心が富田から現在の市内の方へ移っていく時代の流れの中で、増々衰退していきました。明治初期には、本堂が老朽化によって取り壊され、当寺の寺子屋を大きくして初代富田小学校が建てられました。そしてついに、昭和 33 年から 49 年までの約 13 年間無住となる期間を経ていく事になります。

昭和 49 年の秋、寺を復興する為、先代の住職が愛知県から入りました。当時は檀家も一軒もなく托鉢から始めました。又、寺内も多くの大木に覆われ、薄暗い森のような状態で荒れ果てた方丈と毘沙門堂のみ残っていて開墾する所から始まりました。住職の努力が実り、昭和 52 年に国の重要文化財の指定を受け、57 年から 4 年間かけて全解体修理を行い、皆様のご協力を得て徐々に復興し、平成 5 年に念願の薬師寺堂を建て、現在に至っています。

最後に、普門寺には四季折々いろいろな花が咲きます。春の新緑、秋の紅葉もきれいです。良かったら見に来て頂けたら幸いです。



●方丈・毘沙門堂・薬師堂・写経堂・庫裡等 再建記念(平成八年の総絵)

<新型コロナウイルス感染症対策本部より>



小規模多機能型居宅介護あすなろで、9月に発生した新型コロナウイルスクラスターについてご報告いたします。9月2日、抗原検査キットで利用者2名の陽性を確認し、すぐにご家族と保健所や医療機関に連絡しました。事業所として対応を協議し、9月4日から11日まで「通い」休止をご利用者、ご家

族に要請いたしました。陽性となったご利用者9名、職員6名は重症化することなく収束いたしました。この経験から、感染防止対策を再度見直し、反省を踏まえ、感染防止対策を継続してまいります。ご利用者、ご家族、関係機関の皆様にはご協力いただいたことに感謝申し上げます。



くらし創造の家 朋(とも)



富田文化祭に参加



11月19日(土)・20日(日)の両日、富田町自治会連合主催の「富田文化祭」が富田公民館で開催されました。朋では、利用者の皆さんが作成した「さるかに合戦」の壁画を出展しました。色画用紙とのりとハサミ、筆に絵の

具を使い、「手がベタベタや。」「うまいこと切れへんわ。」「こんな色でええんか。」などと言いながらも熱心に集中して取組んでおられました。



「しあわせって何？」初心を大切に・・・



訪問介護

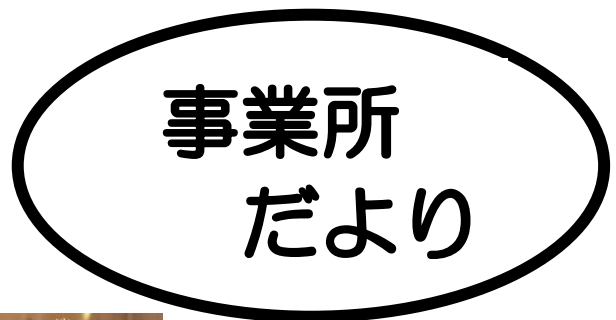
私が学生の頃に出会ったスウェーデン生まれの絵本で「しあわせ」という絵本があります。「あなたにとってのしあわせって何だろう」を問われる絵本です。

「しあわせ」は人それぞれです。自分の「しあわせ」と利用者さんの「しあわせ」とは違います。新米の頃、利用者さんの「しあわせ」って何だろうと考えることが始まりました。「傾聴」という言葉をよく耳にしました。利用者さんの

気持ちを聴き、気持ちに寄り添う。そこから利用者さんにとっての「しあわせ」を考える。そして寄り添う。介護職で大切な事。

慣れてくると初心を忘れがちな自分に初心を思い出させるため、時々子どもに読み聞かせる「しあわせ」の絵本。初心に戻り、自分を奮い立たせて今日もケアに出発です。(Y)

あすなろ総合事業 短時間デイサービス



エッグアート作品展(7月13日~15日)と
体験教室 (11月24日)



エッグアートという芸術のジャンルをご存じですか？文字通り卵の殻(エッグシェル)を使って装飾を施すクラフトです。地域在住の佐野恭子さんの作品を地域交流センターあすなろで展示させていただきました。多くの作品がある中、あすなろの展示スペースに合わせたミニ作品展になりましたが、訪れた方々は「きれいー！」「繊細！」と大好評でした。「作ってみたい。」「できるかなー。」との声を受け止めて下さり、体験教室が実現しました。壊れやすい卵の殻を大切に扱って、可愛いクリスマスプレゼントが出来ました。



くらし創造の家 朋(とも) 小規模多機能型居宅介護



10月31日スタッフがハロウィンの扮装をして、そっと皆さんに近寄って…。突然始まったハロウィンに騒然と思いきや、スタッフを気づかかって「うわあ、びっくりやあ。」と驚いたふりをして下さる方も。トリックオアトリートならぬ

「トリック&トリート」で、皆さんにお菓子をプレゼントしました。少し童心にかえったひと時でした。



小規模多機能型居宅介護 あすなろ



11月28日(月)の午後2時からオンラインでレクに参加しました！オンラインでレクとは、NPO 法人タダカヨさんが、コロナ禍のご高齢者に楽しさを届けたいという想いから、無料オンラインレクイベント「タダレク」を毎月開催されています。10月に開催された時には、681施設 10215名が参加されたそうです。

竹口亭ホワイトボードの竹口 耕輔さんが、理学療法士の知見を活かしたリハビリ体操とオレオレ詐欺をテーマにした紙芝居で楽しま

せて下さいました。

もう一組は、座ってできるソーラン節「座ソーラン」を各地の介護事業所でされているNPO 法人コーチズの児玉 尚さんが登場。ソーラン節の楽しさを適度な身体負担で行える座ソーラン、あすなろの車椅子使用の利用者さまも、楽しそうに踊られてましたよ♪

毎月開催されるので、毎月参加したいなと思っています。ちなみに12月は、声×ヨガで楽しく誤嚥予防「声×ヨガ体操」です！ご利用者も楽しみにされています♪ (S)



NPO 法人タダカヨ <https://mmky310.info/>

研修実施報告

「精神障がい者の生活のしづらさと在宅支援」

11月24日(木)星野クリニック精神保健福祉士 相談支援事業所スピカ相談支援員石田千代氏を講師に迎え、精神障がい者の生活のしづらさとは何か、どう理解したらいいのか、どのような対応をとればよいのかなどについてお話を聴きました。【ご本人が訴えられていることは、体験している不安感や言いようのない危機感や疑惑に満ちた感情の言語化。



そこには切迫感が感じられることがある。「辛い」「安心できない環境である」「助けてほしい」と訴えている。訴えの内容ではなく、本人が感じていることへの受容や共感、安心の保障を心がける、アプローチを変える、眠れているのか、食べられているのかを確認することも大切。そして支援者が消耗しないために無力感を感じないこと、ヘルパーが一人でしんどさを抱え込まないこと、適度な距離感が必要。ヘルパーに期待していることは孤独感や孤立感から救い出すことができる役割を担い、利用者を支援するチームの一員であることです。他職種との連携、情報の共有がとても重要。】このような講義内容に、最後には心が温まりホッとした気持ちにもなりました。

「いつまでも口から食べるー重度摂食嚥下障害を学ぶ」

12月12日(月)京都府立医科大学形成外科言語聴覚士の三田村啓子氏をお迎えし、ご利用者にいつまでも口から食べていただくために重度摂食嚥下障害を学ぶ研修を実施しました。事前の質問事項に答えていただきながらの講義でした。

【摂食・嚥下障害に難渋する原因として圧倒的に多いのが認知障害と咽頭機能障害。認知症を遅らせること、咽頭の機能を維持することが“いつまでも口から食べる”ことにつながる。平均寿命が延び、健康寿命との差が

大きくなり、食事の援助が必要になる期間が延びた。摂食・嚥下の器官の評価につながる大切な声と構音。認知症が進むにつれ「物言わない人」になる。重度認知症でも叫んでいる人は食べられる。感覚刺激のために時には冷たいアイスも有効。金属のスプーンで熱い冷たい温度を伝える。足底が安定している姿勢も大切。】という講義内容でした。そして「同じことを何十回お話しさせているご利用者、どうぞしゃべらせてあげてください。」と三田村先生からのメッセージでした。

サービス提供実績 (2022年9月~11月)



◇社会福祉法人

《訪問介護》

利用件数	1,916 件
利用時間	1782.89 時間
生活援助	456.86 時間
身体介護	600.47 時間
身体生活	725.56 時間

《介護予防訪問介護》

利用件数	567 件
利用時間	490.52 時間

《ケアワーカー派遣サービス》

利用件数	167 件
利用時間	139.00 時間
家事援助	101.00 時間
身辺ケア	38.00 時間

《小規模多機能型居宅介護》

平均登録人数	
くらし創造の家 朋(とも)	22.0 人
あすなろ	20.0 人

《障害福祉・居宅介護》

利用件数	2,849 件
利用時間	2936.50 時間
家事援助	1449.00 時間
身体介護	1210.50 時間
通院介助	277.00 時間

《重度訪問介護》

利用件数	43 件
利用時間	85.00 時間

《同行援護》

利用件数	480 件
利用時間	1120.83 時間

《移動支援》

利用件数	449 件
利用時間	1149.00 時間

小規模多機能型居宅介護 あすなろ 手作り市



靴下の製造過程で出る縫製クズ(輪)を奈良県広陵町から取り寄せ、ご利用者と色分けし、それを指で編んで、座布団やティッシュボックスカバー、スリッパなどを作っています。

法人本部の前でお天気のいい日に、手作り市をしています。お近くに来られましたら、是非、お立ち寄り下さい。



年末年始休業のお知らせ

◇法人本部事務所 12月30日～1月3日



*訪問介護・小規模多機能型居宅介護は変わりなく活動しています。

♡ご協力に感謝します(2022年9月23日～12月20日)

<社会福祉法人>

□寄附金 累計 40,000円
小谷啓二様

<後援会>

□後援会費 累計 109,000円
□寄附金 累計 0円
□物品販売 累計 156,100円

♣後援会の物品販売です!

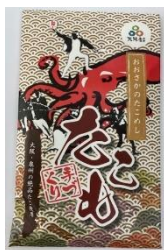
どれも美味しい一品です。



♣荖わかめ佃煮
130g 300円



♣塩わかめ
130g 300円



♣たこ飯の素
2合用 450円



♣おとひめこんぶ
1袋 550円



♣コーヒー(豆、挽)
500g 1,150円

✍ 編集後記

銀杏の葉が、道路を黄色い絨毯を敷き詰めたように落ち、掃除が日課になる季節が今年もやってきました。コロナ感染状況が少し落ち着き、今まで我慢をしていた旅行やイベントが再開し明るいニュースも聞こえてきます。

我が家は今年も大きな変化もなく、平凡な毎日が過ぎましたが、何もなく平凡が一番なのかなと思います。年末、年始にむけ気持ちも引き締め過ぎたいと思います。皆様もよいお年をお迎えください。(S)

社会福祉法人高槻ライフケア協会

〒569-0806 高槻市明田町5番7号 TEL(072)683-4945 <http://tlca.info/>